

3-2 確率論的地震動予測地図

「全国を概観した
確率論的地震動予測地図」

地震による強い揺れに見舞われる可能性を表わした
全国を対象とした地震動予測地図を公表しています。

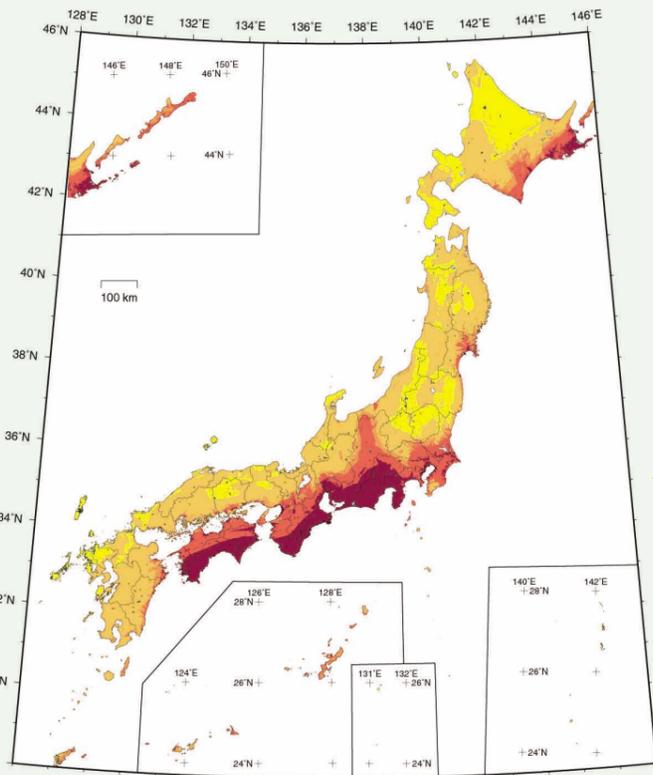
地震に関する調査観測の重点化、地域防災等への活用が期待されます。 地震調査研究推進本部ホームページ http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka04.htm

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図

平均ケースと最大ケース

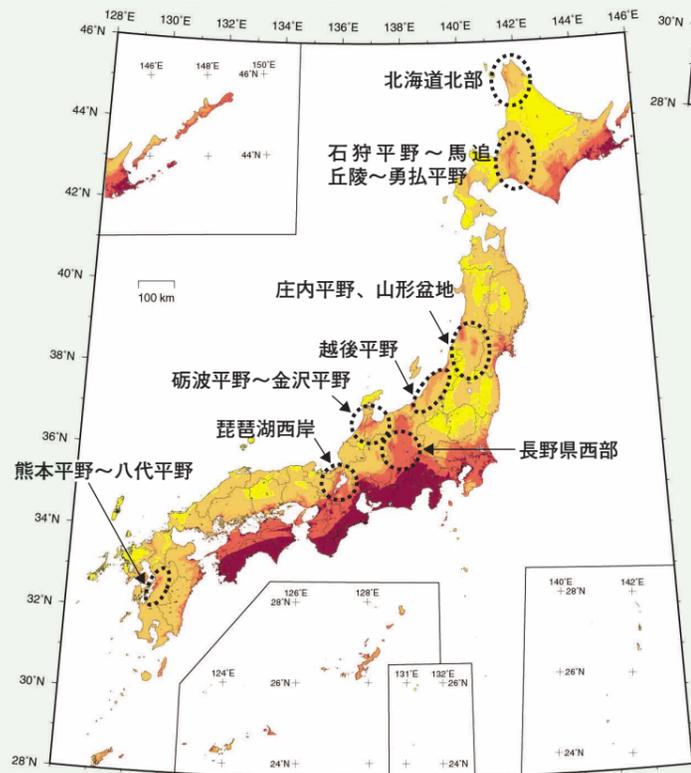
主要活断層帯の平均活動間隔、最新活動時期の評価に幅がある場合が多いため、それぞれの中央値を用いて発生確率値を計算する場合（平均ケース）と確率の幅のうち最大値をとった場合（最大ケース）の確率論的地震動予測地図を作成しています。確率論的地震動予測地図は特に断り書きがない場合は、平均ケースのことを示しています。

全ての地震を考慮した平均ケース



全ての地震を考慮した最大ケース

で囲んでいる領域が平均ケースと比べて、発生確率に差が大きく出ている主な地域です。



(基準日: 2008年1月1日)

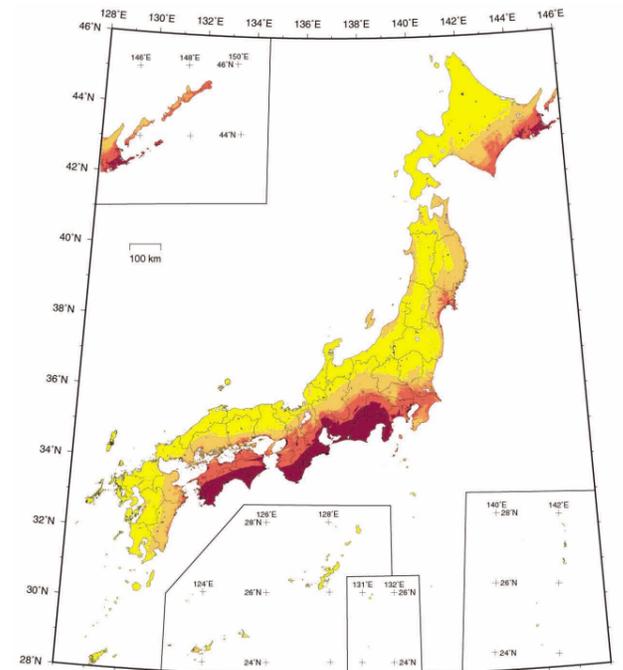


地震分類別の地図

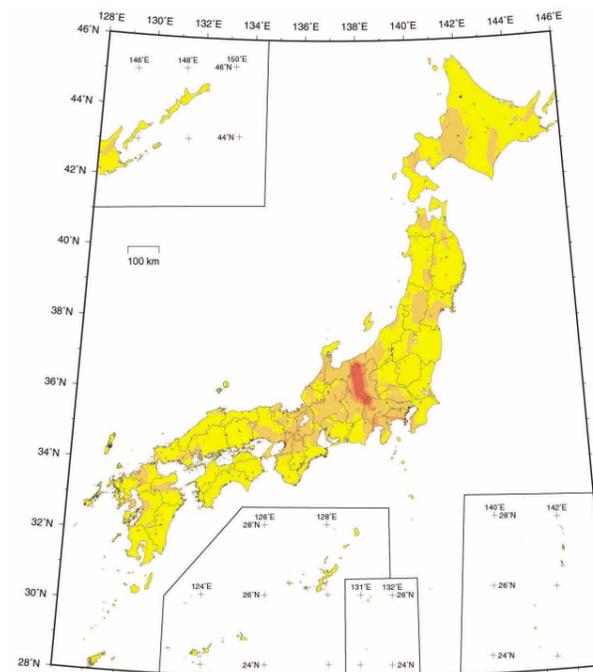
確率論的地震動予測地図では、対象地域に係わると想定される全ての地震を考慮した地図だけでなく、それぞれの地震や地震分類別の地図を作成することも可能です。ここでは、「主要活断層帯の固有地震」、「海溝型地震」、それ以外のどこで発生するか特定できない「その他の地震」の地図を示します。



A 海溝型地震のみ



B 主要活断層帯の固有地震のみ (長さが20km以上と想定される断層帯)



C その他の地震 (●長さが10～20kmの断層帯 ●震源断層を予め特定しにくい地震 など)

